36　杉田禾堂　兎　一点

昭和十二年（一九三七）　白銅、鋳造

一五・一×一七・八×三二・四

作品番号35と同じく、動物を主題にした鋳造の作品で、兎の形態を単純化して巧みにまとめた、独特の造形美をもつ置物である。足の裏面に「禾堂」と鋳造銘があり、箱書きなどから原型と監修を杉田禾堂（一八八六～一九五五）が行い、鋳造を工芸成形社が担当した作品である。杉田は長野県に生まれ、明治四十五年に東京美術学校鋳造科を卒業、大正八年から昭和十九年まで同校で講師をつとめた。大正十五年に結成された工芸団体「无型」に参加、工芸の近代化運動に大きく関与し、帝展には美術工芸部が設置された昭和二年第八回から出品、五年第十一回帝展に出品した「用途を指示せぬ美の創案」は異色作として反響を呼んだ。その後も新文展、日展に出品、審査員もつとめた。昭和七年には大阪府工業奨励館の工芸産業奨励部の初代部長となり、産業工芸の振興に力を注いだ。本作や作品番号35の制作を手がけた工芸成形社については詳らかでないが、制作年代は産業工芸に取り組んだ杉田の大阪での活動期と重なっている。本作は、杉田が帝展で見せたような先鋭的な作品の一方で、広く親しまれる置物も手がけていたことが知られる一点である。

・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

花ひらく個性、作家の時代―大正・昭和初期の美術工芸
三の丸尚蔵館展覧会図録No.50

編集　宮内庁三の丸尚蔵館
制作　株式会社　東京美術
翻訳　横溝廣子
発行　宮内庁
平成二十二年三月三十日発行

© 2010, The Museum of the Imperial Collections